

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課長 三浦 順 電話番号 0852-22-5311

事務事業の名称	漁獲管理事業	
目的	(1) 対象	漁業者
	(2) 意図	法律で定める特定魚種を対象に漁獲の管理を行なうことにより漁業経営の安定を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・漁獲管理計画を策定し、漁獲管理により漁業経営の安定を図る。 ・漁協等の漁獲データを収集するためのネットワークシステムの保守を行う。 ・沿岸性魚種の漁獲状況調査等を実施し、資源管理施策の基礎資料を整備する。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	漁獲管理計画策定対象魚種数	目標値		8.0	8.0	8.0	10.0	魚種数
	式・定義	対象魚種数	取組目標値						
			実績値	8.0	8.0	9.0			
			達成率	-	100.0	112.5	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	17,725	18,290
うち一般財源 (千円)	1,039	1,267

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画を策定し、魚種ごとの漁獲可能量を定め、資源管理及び漁業経営の安定化を図っているところである。
- ・平成30年度より漁獲管理計画策定対象魚種としてクロマグロが追加となる。他の魚種とは異なり採捕停止命令に違反すると罰則が適用される。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

概ね円滑な漁獲可能量の管理ができ、資源管理及び漁業経営の安定に寄与した。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・浮魚の来遊状況によっては、中型まき網漁業において漁獲可能量を超過する漁獲となる場合がある。
- ・クロマグロの来遊状況によって、一本釣・ひき縄漁業、定置漁業等において採捕停止命令が発出される可能性がある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・浮魚の来遊状況や漁場の形成が年によって異なるため、予測通りにならない。
- ・クロマグロは国際的に非常に厳しい資源管理を実施しており、島根県に配分された漁獲可能量以上にクロマグロが来遊する可能性が高いため。

③原因を解消するための「課題」

漁業者への資源管理の取り組み内容の理解を深めること。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・中型まき網漁業においては、漁獲状況を速やかに把握するとともに、対象魚種 (マイワシ、マアジ、サハ類) が漁獲可能量に迫った場合には休漁等の自主的な措置を促す。また、対象魚種の漁場形成により好漁が見込まれる場合には、国に対して、漁獲可能量の追加要望を行う。
- ・クロマグロについては、毎月漁獲状況を速やかに把握するとともに、漁獲状況に応じて早期は正措置、採捕停止命令の発出を行い漁獲可能量の遵守に努めると共に、漁業実態の把握に努め、必要な対策等について国へ働きかけを行う。